



出張報告届

令和7年7月14日

吹田市議会議長様

会派名 立憲民主党

代表者氏名 西岡 友和

出張者氏名 西岡 友和.....

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	リファレンス 駅東ビル 〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1丁目16-14
期間	令和7年7月10日～11日の2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	地方議員研究会 研修会 ・議会×行政 活動虎の巻2 ・決算審議特別研修1, 2

地方議員研究会主催の研修会
「議会×行政 活動虎の巻」「決算審議特別研修」

令和7年7月12日

西岡 友和

今回の研修は、地方議会の機能強化と議員の政策形成能力の向上を目的とした実践的内容であり、議会人としての責任と使命を改めて自覚する貴重な機会となった。以下に研修内容の要点を整理し、今後の議員活動への活用に活かしたい。

「議会×行政 活動虎の巻」

本研修では、まずは基本的な概念として、議会と行政の本質的な役割の違いに焦点が当てられ、対立構造ではなく、政策協働の観点から両者のあるべき関係性が論じられた。議会が有すべき機能として、「監視機能」「政策形成機能」「住民代表機能」の三本柱が示され、それぞれに対する具体的なアプローチが紹介された。

議会は行政の追認機関に甘んじてはならず、地域課題の把握と政策的視点に立脚した提案・修正を通じて、議会の存在意義を明確にせねばならないという点は押さえておきたい。また、条例提案権の積極的な行使、政策条例の立案手法、市民参加型議会運営（パブリックコメント制度、住民説明会の設計等）も紹介され、吹田市議会における将来的な取り組みについて、ヒントを得ることができた。

子育て支援、教育現場の人材確保、ICT人材の育成、地域安全対策等の分野において、一人会派ではあっても、議員としての提案力を強化し、課題の抽出から政策化までを一貫して行うことの重要性を再認識した。

「決算審議特別研修」

決算審議に関する本講座では、「予算は未来への約束、決算はその結果への責任」との考え方を前提に、予算執行の成果検証の視点を重視するよう示された。数字の整合性確認にとどまらず、「成果」「市民生活への寄与」に焦点を当てた実質的審議が求められるという認識を確認できた。

特に印象に残ったのが、KGI（最終成果指標）・KPI（中間成果指標）を用いた成果評価の考え方である。

行政の実施事業に対して「目的設定」「目標値」「達成状況」を明確化し、評価と改善に結びつける手法は、吹田市の施策評価制度においても応用可能と言える。

また、実質収支比率、将来負担比率、公債費比率などの財政指標を分析し、複数年度にわたる傾向を把握することの意義も確認された。吹田市の財政調整基金や市債残高、特別会計の執行状況を俯瞰し、次年度予算への提言を行う姿勢が求められるであろう。

議員は行政が実施する政策に対し、批判のみに終始してはならない。自ら行う調査・研究に基づいた提案型の議員活動を徹底する事が求められる。子育て支援制度の充実、教育人材の外部登用、ICT人材の確保と育成について、必要に応じて議員提案条例の提出も視野に入れて行動する。

また、決算審議の精緻化と市民への説明責任として、定量的・定性的視点から各事業の成果を分析し、必要に応じて事業の見直しを求めると同時に、重点的投資の必要性を確認した。そのプロセスを市民に分かりやすく発信するため、議会報告会や SNS 等を活用した「決算・政策の見える化」にも取り組みたい。

議会の活性化と市民参加の促進については、ICT を活用した意見募集、市民モニター制度の提案などにより、議会と市民の接点を増やす。これにより、議会活動に対する市民の理解を深め、地方自治の深化につなげていく。

終わりに本研修は、地方議員としての基本を再確認するだけでなく、未来志向の議会活動への道筋を示すものであった。政策は住民福祉を向上させる為の仕組みであり、その設計と執行を左右する議員の責任は重大である。吹田市が直面する課題は多様であるが、現場主義と市民起点の視座を持ち、実効性のある政策提言と議会活動を展開することで、持続可能な地域社会の形成に貢献したい。